

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名		公表日		利用児童数		回収数		
リールスメディカル井高野		令和8(2026)年2月18日		16名		16名		
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
		環境・体制整備	1	14	1			0
2	職員の配置数は適切であると思いますか。	10	3	1	2			
3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	3	0	1			
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	14	2	0	0			
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	13	2	1	0		
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	11	3	0	2		
	7	子どものことを十分に理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	14	1	0	0	個別支援計画書の複写が欲しい	丁寧な対応に努め、各対応について改善をはかる。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	12	2	0	2		
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	13	2	0	1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	11	2	0	3		
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	0	2	8	6		
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	12	3	1	0		
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10	3	1	2		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	5	4	6		
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	15	0	1	0		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7	4	1	4		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	14	2	0	0		
18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1	1	9	5			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	14	0	1	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	2	0	1	トラブルの際、スマホのメッセージ等で、やり取り出来るように欲しい。	迅速かつ丁寧な連絡・報告に努め、安心してご利用頂ける支援体制を確保していく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	3	3	5	5	また散歩に行った事やイベント、防災訓練など行った事はもっとアピールして欲しい。	事業所ブログを活用し、事業所で行ったイベント・訓練の実施状況を広くお知らせしていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13	2	0	1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	0	3	8		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4	0	2	10		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	12	0	1	3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	0	0	6		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13	2	0	1		
	29	事業所の支援に満足していますか。	14	2	0	0		

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名	リールスメディカル井高野		公表日			2026年 2月 18日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6	1	個別支援計画書作成時の助言依頼や助言内容の共有及び施設内での事例検討を実施しております。	センターとの連携を事業所の方針として定め、児童発達支援管理責任者が窓口となり年間計画に組み込んでいきます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	一人の職員に負担が集中しないよう交代で参加したり、参加後の事業所内で報告会を開催しています。	協議会への参加を職務の一環として位置づけ、共通認識の中で優先事項として扱っていきます。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	既存の送迎時間を活用し「今日の支援のポイント」をお伝えしたり連絡帳などを通して情報共有を行っております。	地域で開催される保護者向け研修会や、行政主催の研修会などに参加し、定期的にご家族との情報共有を図っていきます。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7			

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	5	2	仕事をされている保護者が多いので、送迎時などご家族が事業所に来られるタイミングを利用して談話室等で自然な交流を促しています。	保護者やきょうだいが何を求めているかアンケートや個別面談等で把握し、どんな形であれば参加できるかを希望に応じて計画していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	1	日々の活動で撮った写真や気付いたエピソードを担当者に集約し、活動ブログを設けています。	業務時間内でのブログ作成時間が確保できずにいた為、複数人での協力体制やテンプレート及びマニュアルの整備を行います。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	近隣地区の公園での活動や地域のお店への買い物など活動で地域に出ることで、自然な交流を図っています。	職員・保護者等の意見を取り入れ、また地域包括支援センターなどと連携し地域交流の支援を得ています。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメディカル井高野		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所として、児童期から成人期まで切れ目のない継続支援を同じ場所で提供でき、多様な専門職による支援と家族への包括的支援、また施設設備の効率的活用が可能であること。	定期的な事業所間合同カンファレンスを通して、利用者の特性や効果的な支援内容を共有することで一貫した支援の継続が出来ている。また、専門職が事業の枠を超えて連携し、多角的な視点から支援方法を検討している。	異なる事業の利用者同士が交流できるイベントや活動を行い、利用者同士の交流機会の創出を図っている。また、職員が複数の事業間を経験できるローテーション制度や専門性を高められる研修体系を整備し組織全体の支援力向上を図っている。
2	異なる事業の職員が同じ施設で働くことで、多様な視点や支援技術の共有ができ、職員のスキルアップが図れる環境であり、支援の質の向上を実現している。	職員が他事業の支援現場を見学したり、実際に支援に入ったりする機会を設けることで、児童期・成人期それぞれの障がい特性への理解が深まったり、新たな発達支援の視点を得たりすることが出来る。	年に2回、自己評価や職員間の相互評価を通じて個々の支援スキルの成長を確認し、次の学習目標を設定する機会を設け、計画的な育成を図っている。
3	児童の発達状況や支援の課題について、保護者と日常的に情報を共有し、家庭と事業所で支援方針に一貫性を持たせ一人ひとりに最適化された支援を提供できるように努めていること。	保護者からの相談しやすい雰囲気づくりを意識し、些細なことでも気軽に相談できる関係性を大切にしている。困りごとを早期に発見することで、適切な支援に繋げている。	ご家庭と事業所の支援計画の統合を行うべく、個別支援計画を作成する際に、家庭での目標や取り組みも盛り込み、一体的な支援計画として運用している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の身体状況、医療的ニーズ、感覚特性に配慮した環境の構造化が不十分であり、児童が安心・安全かつ快適に過ごせる環境づくりに改善が必要	利用児童の多様性への対応の難しさがあり、一人ひとりの身体状況や感覚特性が異なる為、児童全員に配慮した環境設定が難しく、個別対応が不十分になっている。	保護者からの意見・要望の聞き取りや理学療法士など専門職による環境評価を実施。また、児童一人ひとりの身体状況・感覚特性に応じた環境アセスメントを職員間で実施し適切な環境となるよう段階的に整えていく。
2	活動の既存プログラムの見直しが不十分で、児童の発達段階や興味、季節性に応じた多様で創意工夫のある活動提供が不足している為、新鮮な刺激や成長の機会を十分に提供できておらず、改善が必要	日々の入浴などの支援業務や医療的ケアに追われ、新しい活動を企画・準備する時間や余裕が確保できていない。既存の活動プログラムを行うことで精一杯となっている。	スタッフ会議を通じて、支援手順の見直し、役割分担の最適化、安全確認の徹底など、実践的な業務改善に向けた意見交換と合意形成を行い、活動プログラムの見直しを図っていく。
3	職員からの意見や提案を聞く機会はあるものの、それを具体的な業務改善に反映させる仕組みが不足しており、PDCAサイクルが機能していない為、改善が必要	職員からの意見や提案が散発的で、組織的に集約・整理・優先順位付けする仕組みが不十分でどの意見から取り組むべきか難渋している。	管理者を中心に提案内容の分類整理、緊急度と重要度のマトリクスでの優先順位付けを行い、改善策ごとの担当者と期限の明確化にて実行体制の構築を図っていく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名 リールスメディカル井高野

公表日 令和8(2026)年2月18日

利用児童数

2名

回収数

2名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	2	0	0	0		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1	0	0	1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2	0	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1	0	0	1		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	1	0	0	0		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	0	1	0		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0	0	0	1	相談できる面談の充実を希望します。	機会の提供に加え、意義・目的についても丁寧にお伝えするよう努める。
17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2	0	0	0			
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	0	1	0			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	0	0	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	0	0	0	1	子供の過ごしている様子を見てみたいで	事業所ブログを活用し、事業所で行ったイベント・訓練の実施状況を広くお知らせしていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	0	0	0	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	0	1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1	0	0	1		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	2	0	0	0		

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	リールスメディカル井高野		公表日		2026年2月18日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	1	個別支援計画書作成時の助言依頼や計画の整合性の確認、効果的な支援方法や児童との関わり方の相談などを行っております。またその助言内容等は施設内に共有及び事例検討を実施しております。	センターとの連携を事業所の方針として定め、児童発達支援管理責任者が窓口となり年間を通じて計画的に情報交換や助言依頼を頂く機会を設定し、継続的な連携体制を構築してまいります。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	2	活動の一環として散歩や買い物など事業所周辺での活動を通じて地域の方々と挨拶を交わすなど緩やかな交流を図っています。	重症心身障害児の社会参加は重要な取り組みですが安全面への配慮や医療的ケアの対応、ご家族の理解など課題があります。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	既存の送迎時間を活用し「今日の支援のポイント」をお伝えしたり連絡帳などを通して情報共有を行っております。	地域で開催される保護者向け研修会や、行政主催の研修会などに参加し、定期的にご家族との情報共有を図ってまいります。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2	仕事をされている保護者が多いので、送迎時などご家族が事業所に来られるタイミングを利用して談話室等で自然な交流を促しています。	保護者やきょうだいが何を求めているかアンケートや個別面談等で把握し、どんな形であれば参加できるかを希望に応じて計画していきます。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6	1	日々の活動で撮った写真や気付いたエピソードを担当者に集約し、活動ブログを設けています。	業務時間内でのブログ作成時間が確保できず、いたが、複数人での協力体制やテンプレート及びマニュアルの整備を行います。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	1	近隣地区の公園での活動や地域のお店への買い物など活動で地域に出ることで、自然な交流を図っています。	職員・保護者等の意見を取り入れ、また地域包括支援センターなどと連携し地域交流の支援を得ていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				

公表

児童発達支援デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメディカル井高野		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所として、児童期から成人期まで切れ目のない継続支援を同じ場所で提供でき、多様な専門職による支援と家族への包括的支援、また施設設備の効率的活用が可能であること。	定期的な事業所間合同カンファレンスを通して、利用者の特性や効果的な支援内容を共有することで一貫した支援の継続が出来る。また、専門職が事業の枠を超えて連携し、多角的な視点から支援方法を検討している。	異なる事業の利用者同士が交流できるイベントや活動を行い、利用者同士の交流機会の創出を図っている。また、職員が複数の事業間を経験できるローテーション制度や専門性を高められる研修体系を整備し組織全体の支援力向上を図っている。
2	異なる事業の職員が同じ施設で働くことで、多様な視点や支援技術の共有ができ、職員のスキルアップが図れる環境であり、支援の質の向上を実現している。	職員が他事業の支援現場を見学したり、実際に支援に入ったりする機会を設けることで、児童期・成人期それぞれの障がい特性への理解が深まったり、新たな発達支援の視点を得たりすることが出来る。	年に2回、自己評価や職員間の相互評価を通じて個々の支援スキルの成長を確認し、次の学習目標を設定する機会を設け、計画的な育成を図っている。
3	児童の発達状況や支援の課題について、保護者と日常的に情報を共有し、家庭と事業所で支援方針に一貫性を持たせ一人ひとりに最適化された支援を提供できるように努めていること。	保護者からの相談しやすい雰囲気づくりを意識し、些細なことでも気軽に相談できる関係性を大切にしている。困りごとを早期に発見することで、適切な支援に繋げている。	ご家庭と事業所の支援計画の統合を行うべく、個別支援計画を作成する際に、家庭での目標や取り組みも盛り込み、一体的な支援計画として運用している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の身体状況、医療的ニーズ、感覚特性に配慮した環境の構造化が不十分であり、児童が安心・安全かつ快適に過ごせる環境づくりに改善が必要	利用児童の多様性への対応の難しさがあり、一人ひとりの身体状況や感覚特性が異なる為、児童全員に配慮した環境設定が難しく、個別対応が不十分になっている。	保護者からの意見・要望の聞き取りや理学療法士など専門職による環境評価を実施。また、児童一人ひとりの身体状況・感覚特性に応じた環境アセスメントを職員間で実施し適切な環境となるよう段階的に整えていく。
2	活動の既存プログラムの見直しが不十分で、児童の発達段階や興味、季節性に応じた多様で創意工夫のある活動提供が不足している為、新鮮な刺激や成長の機会を十分に提供できておらず、改善が必要	日々の入浴などの支援業務や医療的ケアに追われ、新しい活動を企画・準備する時間や余裕が確保できていない。既存の活動プログラムを行うことで精一杯となっている。	スタッフ会議を通じて、支援手順の見直し、役割分担の最適化、安全確認の徹底など、実践的な業務改善に向けた意見交換と合意形成を行い、活動プログラムの見直しを図っていく。
3	職員からの意見や提案を聞く機会はあるものの、それを具体的な業務改善に反映させる仕組みが不足しており、PDCAサイクルが機能していない為、改善が必要	職員からの意見や提案が散発的で、組織的に集約・整理・優先順位付けする仕組みが不十分でどの意見から取り組むべきか難渋している。	管理者を中心に提案内容の分類整理、緊急度と重要度のマトリクスでの優先順位付けを行い、改善策ごとの担当者と期限の明確化にて実行体制の構築を図っていく。

事業所名

リールスメディカル井高野

支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念	子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。		
支援方針	多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。		
営業時間	平日 土・祝・長期休暇	11 (10) 時 30 分から 17 (16) 時 30 分まで	送迎実施の有無 <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容			
本人支援	健康・生活	看護職員等により来所時の健康チェック、ご利用児童ひとりひとりの医療濃度に応じ看護職員による医療的ケアを実施し、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 個々の心身の状態に合わせ機能訓練担当職員によるリハビリテーションを実施することで、各自が保有する機能の維持・改善と健全な心身の発達を支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。	
	運動・感覚	機能訓練担当職員によるリハビリテーションにより、個々の心身の状態に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、関節の拘縮、変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ、活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いす等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。	
	認知・行動	支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照らしつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。	
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けや、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。	
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：パラバルーン等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。	
家族支援	ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。	移行支援	学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。 希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。
地域支援・地域連携	ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。	職員の質の向上	年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。
主な行事等	外出活動（各月）、お誕生日会（各月）、節分・ひな祭り（3月）、花見（4月）、スイカ割・七夕（7月）水遊び・夏祭り（8月）、ハロウィン（10月）クリスマス会（12月）、書初め・初詣（1月）お別れ会（3月）		

事業所名

リールスメディカル井高野

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2024 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。							
支援方針		成長著しい乳幼児期のお子様ひとりひとりの発達の充実が図られるよう、保護者や地域の支援機関との連携を重視しながら、個々のニーズに合わせ工夫を凝らした多様な活動・体験機会を提供することを通じ、就学に備えられるよう支援する。							
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	11 (10)	時 30 分から	17 (16)	時 30 分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	看護職員等により来所時の健康チェック、お子様ひとりひとりの医療濃度に応じ看護職員による医療的ケアを実施し、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 個々の心身の状態に合わせ機能訓練担当職員によるリハビリテーションを実施することで、各自が保有する機能の維持・改善と健全な心身の発達を支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、お子様ひとりひとりの生活リズムの形成・安定を図る。							
	運動・感覚	機能訓練担当職員によるリハビリテーションにより、個々の心身の状態に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 お子様ひとりひとりの身体の状態に合わせ、活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いす等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、お子様が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。							
	認知・行動	支援スタッフがお子様ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえてお子様が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、お子様が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、お子様が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、環境の状況や変化を徐々に把握・理解できるよう支援。							
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを徐々に伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、お子様ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどをを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けや、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。							
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：パラバルーン等）の提供により、他のお子様と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 お子様ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。							
家族支援		お子様の発達状況を相互に理解し合えるよう、こまめな気づきの共有と情報交換を実施。お子様を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。				移行支援		保育所等併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路(就学)先を見据えた保護者等との相談援助を実施。	
地域支援・地域連携		お子様がスムーズな生活を送れるよう、保育所・幼稚園等の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。				職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。	
主な行事等		外出活動（各月）、お誕生日会（各月）、節分・ひな祭り（3月）、花見（4月）、スイカ割・七夕（7月）水遊び・夏祭り（8月）、ハロウィン（10月）クリスマス会（12月）、書初め・初詣（1月）お別れ会（3月）							